
第 83 回日本公衆衛生学会自由集会（報告）

テーマ：災害時における公衆衛生関係職種が連携した栄養・食支援を考える

令和 6 年（2024 年）10 月 29 日（火）に、標記自由集会をハイブリッド形式で開催しました。全国のたくさんの方にご参加、ご協力いただき、ありがとうございました。

■参加人数：会場 28 人、オンライン 294 人

■内容

1 発表

- (1) 「DHEAT 活動における管理栄養士の役割と期待」 宮崎県延岡保健所 所長 西田 敏秀 氏
- (2) 「統括保健師からみた管理栄養士への期待」 全国保健師長会 会長 前田 香 氏
- (3) 「災害時の歯科口腔保健活動と連携の必要性」 東北大学大学院歯学研究科 中久木 康一 氏
- (4) 「災害時における栄養・食生活支援活動～穴水町での支援活動を中心に～」
兵庫県企画部計画課 諸岡 歩 氏

2 パネルディスカッション

＜進行・ファシリテーター＞愛知県瀬戸保健所 所長 澁谷 いづみ 氏
全国保健所管理栄養士会 会長 磯部 澄枝

■感想等まとめ

今回の自由集会は、能登半島地震を踏まえ、医師、歯科医師、保健師、管理栄養士など公衆衛生関係職種が連携した、より地域に密着した被災地支援について考える機会として、企画されました。

まず「DHEAT 活動における管理栄養士の役割と期待」について発表がありました。災害時には生命維持のために量確保が優先され、個別対応（アレルギー食、宗教上の問題等）などへの対応が難しく、この部分で管理栄養士の活躍が期待されるので、関係機関との調整、他職種との連携した研修や DHEAT 等への参加を通じて、災害対応力を向上させることの重要性をお話いただきました。

「統括保健師からみた管理栄養士への期待」では、管理栄養士に期待する能力として「マネジメント能力」や、他職種・同職種との顔が見える関係づくり、繋がりが必要についてのお話でした。少数職種である管理栄養士だからこそ、他職種と連携して情報収集し、それに基づく対策計画、PDCA を回しながらのマネジメントの重要性について学ぶことができました。

「災害時の歯科口腔保健活動と連携の必要性」について、行政との連携、住民視点で「食べられる」ということについて、同じ専門家の視点で、歯科の視点も取り入れてほしいという話をいただきました。また、さまざまな資料、媒体をご紹介いただき、災害時の食生活支援に向けた学びに是非活用したいと感じました。

「災害時における栄養・食生活支援活動」では、災害時の栄養・食生活支援活動のマネジメントの中で、アセスメントが最重要項目、その後続く立案、進捗管理、評価のサイクルを、どの自治体も標準的に確立することの重要性を学びました。

私たち管理栄養士への期待をお聞きし、災害が起こった際の支援を認識して、これからも学びを止めず、普段から顔のみえる関係づくりを大切にしていきたいと感じる有益な時間となりました。

